

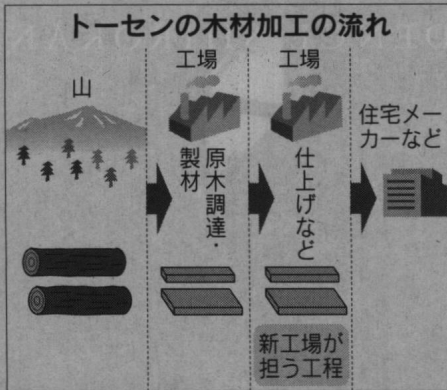
日本経済新聞

2011年(平成23年)2月3日(木曜日)

# 那須塩原に集成材新工場

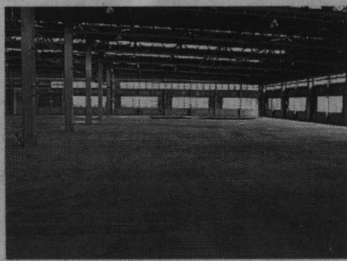
## 4月にも稼働 国産材需要増で

### 製材業のトーセン



製材業のトーセン(栃木県矢板市、東泉清寿社長)は栃木県那須塩原市に国産の杉を使った集成材の新工場を開設する。すでに工事を進めており、4月にも稼働する。柱やはりなどの住宅用部材に加工し、大手住宅メーカーなどに販売する。自治体の助成などで国産材への需要が高まっていることに対応する。

トーセンが4月から新工場として稼働させる建物内部(那須塩原市)



市南部の新工場の建物の延べ床面積は約7000平方メートル。集成材をつくる機械設備に約3億5000万円を投じる。製造する部材はほとんどを長さ3〜4メートル、工程を簡単にして製造コスト

の抑制を狙う。

集成材の生産能力は月2000立方メートル(二戸建て住宅の柱やはりに換算すると、百数十棟程度)である。従業員は15人程度を予定し、その大半を新たに雇

現在の主力工場を、エコワイズで2年間エネルギー診断/最適化をすすめる。

用する方針だ。

トーセンのグループは山から切り出されてきた木材を角材や板などに加工し、乾燥や仕上げをして住宅メーカーなどに供給している。集成材は月1000立方メートルを生産する新潟県内の関連工場があるが、新工場の稼働で能力は3倍強になる。

国産材は住宅着工の回復や木材自給率の向上を目標とした国の政策などもある。需要が高まっている。国産の杉とヒノキから成る「ハイブリッド集成材」を開発しており、この製品も新工場で量産する考えだ。

トーセンは1974年設立。主に住宅用の木材を製造して住宅メーカーやホームセンターなどに販売している。2010年9月期の売上高は約35億円。

### 利根往來

#### 「見える」省エネ

#### ホテルにも波及

#### ○:「省エネルギー投資への関心が再び高まっている」と語る

#### のは、ソフトウェア開発の



カニシなどが採用し、最近宇都宮市内のホテルでも導入が決まった。○:「どうしたら使用量が減らせるか。押しつけないで、モニターの数値をみながら自分で考え、工夫できるのが受けているという。」

アンシブル(宇都宮市)の志水清子社長。電力使用量をモニターで随時監視できるシステム「エコワイズ」を医療機器のナ